

P・I・A シート

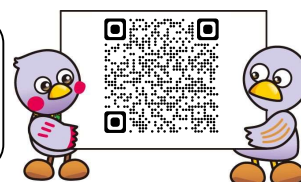
～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～
中学校 社会 編 ① 概要

校種・学年	中学校・3学年	教科等	社会
単元名	私たちの暮らしと経済		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本の整備、公害の防止など環境保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解する。 ・対立と合意、効率と公正に着目して、市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。 ・国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。 		
本時のねらい	消費税減税に関する多様な意見や立場を理解し、自分の考えを、根拠をもって表現する。		
本時の評価規準	消費税に対する考えについて、根拠をもって表現している。 【思考・判断・表現】		

事例の概要(見どころ)

- ・深い学びの実現のために、発展学習として論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論（ディベート）を通して、現代社会の見方・考え方を働かせ、理論を組み立て説得する活動をおこない、資質・能力を育成できるようにしています。
- ・ディベートのテーマ設定にあたっては、生徒自らが関心のある社会課題や身近なテーマを提案し、生徒の学習への主体性を引き出すようにしています。
- ・課題把握・課題追究・課題解決といった単元全体を通して学習過程をデザインし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら、主体的・対話的で深い学びの実現を目指しています。

発行：令和8年3月
埼玉県教育局南部教育事務所
<https://www.pref.saitama.lg.jp/g2201/gakkou/pia.html>



P・I・A シート

～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 実践事例～ 中学校 社会編 ② 指導展開

- 目標 消費税減税に関する多様な意見や立場を理解し、自分の考えを、根拠をもって表現する。
 <思考力、判断力、表現力等>
- 準備 PC、大型モニタ
- 展開 (7/8)

学習活動等	・指導上の留意点	観点 具体の評価規 準 (評価方法)		
1 ディベートの準備をする。 ・本時のねらいの共有 ・配置確認 ・司会、タイムキーパー、 判定者の打合せ	・多様な意見や立場を理解し、自分の考えを 根拠をもって表現させるようにする。 ・相手の意見をよく聞き、自分の理論と比較 するとともに、効率と公正や持続可能性 に着目させたり関連付けたりしながら意 見を述べさせるようにする。	「現代社会の見方・考 え方」を用いて課題を 追究したり解決した りするよう促すこと で、深い学びの実現を 目指しています。		
【単元を貫く問い】 「私たちの未来に向けて、日本が持続可能な財政を実現するためにはどうすればよいのだろうか」				
【論題】 「消費税は減税すべきなのか、今のままでよいのか」				
<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【授業改善の視点】 「自分との関わり」が意識できる論題とすることで、生徒 の生活と関連して政治の働きを追究でき、切実感をもって 政治への関わり方を自分事として考えていく態度が養わ れ、主権者教育の充実につながります。 </td> <td style="width:50%; border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 【授業改善の視点】 本時の論題（課題）の解決が、単元を貫く問いの解決に つながるようにすることが大切です。また、そのために 毎時間単元を貫く問いを掲示するなどして生徒たちに意 識させることが大切です。 </td> </tr> </table>			【授業改善の視点】 「自分との関わり」が意識できる論題とすることで、生徒 の生活と関連して政治の働きを追究でき、切実感をもって 政治への関わり方を自分事として考えていく態度が養わ れ、主権者教育の充実につながります。	【授業改善の視点】 本時の論題（課題）の解決が、単元を貫く問いの解決に つながるようにすることが大切です。また、そのために 毎時間単元を貫く問いを掲示するなどして生徒たちに意 識させることが大切です。
【授業改善の視点】 「自分との関わり」が意識できる論題とすることで、生徒 の生活と関連して政治の働きを追究でき、切実感をもって 政治への関わり方を自分事として考えていく態度が養わ れ、主権者教育の充実につながります。	【授業改善の視点】 本時の論題（課題）の解決が、単元を貫く問いの解決に つながるようにすることが大切です。また、そのために 毎時間単元を貫く問いを掲示するなどして生徒たちに意 識させることが大切です。			
2 ディベート学習をする。 ・開会 ・注意事項の説明 (1) 立論 ○賛成側 ○反対側 ・それぞれの代表が発表	・司会の進め方は必要に応じて助言する。 ・必ず時間は守らせる。 ・発言内容については、必要に応じて記録用紙 に立論の柱をメモに取らせる。 ・ディベートの中で適宜、生徒の発言内容、聞 き方、記録状況等確認する。			
<table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 【賛成側】 家計の負担軽減につながり、生活に余裕が生まれる。また、減税により、消費や投資を活性化 することで景気が回復に向かっていくことから減税に賛成である。 【反対側】 一見すると、家計や経済に良いことづくめに見えるが、減税政策の裏側に潜む課題がある。 財源確保の問題や、この単元で学習した社会保障への影響もあるため、減税には反対である。 税の役割や減税がもたらす現実を持続可能な財政という観点から正しく理解する必要がある。 </td> <td style="width:50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> 前時までに習得し た知識を活用して 立論に根拠をもた せることで、問題解 決的な学習の充実 を図っています。 </td> </tr> </table>		【賛成側】 家計の負担軽減につながり、生活に余裕が生まれる。また、減税により、消費や投資を活性化 することで景気が回復に向かっていくことから減税に賛成である。 【反対側】 一見すると、家計や経済に良いことづくめに見えるが、減税政策の裏側に潜む課題がある。 財源確保の問題や、この単元で学習した社会保障への影響もあるため、減税には反対である。 税の役割や減税がもたらす現実を持続可能な財政という観点から正しく理解する必要がある。	前時までに習得し た知識を活用して 立論に根拠をもた せることで、問題解 決的な学習の充実 を図っています。	
【賛成側】 家計の負担軽減につながり、生活に余裕が生まれる。また、減税により、消費や投資を活性化 することで景気が回復に向かっていくことから減税に賛成である。 【反対側】 一見すると、家計や経済に良いことづくめに見えるが、減税政策の裏側に潜む課題がある。 財源確保の問題や、この単元で学習した社会保障への影響もあるため、減税には反対である。 税の役割や減税がもたらす現実を持続可能な財政という観点から正しく理解する必要がある。	前時までに習得し た知識を活用して 立論に根拠をもた せることで、問題解 決的な学習の充実 を図っています。			



【授業改善の視点】

対話的な学びを一層充実するために、資料等で調べるだけでなく、実社会の人々の話を聞く活動を取り入れ主張に生かすことも大切です。

(2) 作戦会議

- ・相手側への反論を話し合い、反論者1名を選出する。
- ・判定者は立論判定用紙を記入し、まとめる。

- ・反論は相手側の考えを認めながらも、自分達の正しさを主張するために、不備な点を指摘し、根拠をもって反論するよう留意させる。
- ・司会者、タイムキーパーの活動を適切に支援する。
- ・判定者にここまでの様子についてまとめておくよう指示する。

ICTを活用して、反論するために必要な情報を即時収集、共有しています。



(3) 反論

- 賛成側から反対側へ
- 反対側から賛成側へ

【授業改善の視点】

効率と公正、希少性などに着目して、財源の確保と配分について、公共サービスによる便益と、それにかかる費用に対する負担など財政の持続可能性に関わる概念などと関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することが大切です。

(4) 作戦会議

- ・相手側からの反論に対する対応を相談し、最終弁論を考える。最終弁論者1名を選出する。
- ・判定者は反論の判定用紙を記入し、まとめる。

- ・同じ内容の繰り返しにならないように留意させる。

教師は生徒の学びをファシリテート（学習状況を見取る、フィードバックする、問い返す、広げる、つなげる）しながら課題解決への支援をしています。

判定者は生成AIを活用して質問項目を考えることで、ディベート参加者が財政及び租税の意義、国民の納税の義務、財源の確保と配分という観点から多面的・多角的に考察できるようにしています。

(5) 最終弁論と質問と応答

- 賛成側
 - ・判定者が質問を述べる
 - ・賛成側代表者が答える
- 反対側
 - ・判定者が質問を述べる
 - ・反対側代表者が答える

- ・これまで主張してきた範囲内で、自分達の立場を最も有利にする点や最も強く主張したい点を中心に論を組み立て、自分たちの立場が正しいことを主張させる。
- ・判定者にこれまでの様子から、論点を明確にする質問をさせ、代表者に答えさせる。

思・判・表

消費税に対する考えについて、根拠をもって表現している。（観察・ワークシート）

(6) 判定

- ・判定者は、判定用紙に評価を記入し、結果を集計。
- ・判定結果の発表を聞く。

- ・判定者の個人的意見ではなく各側の発言をよく聞いたうえで公平に判定されるようにする。

3 振り返りを記入する。

【授業改善の視点】

振り返りでは、自己省察や学習調整とともに、討論等を行った際には、討論等の学習活動で印象に残ったことを書かせ、学ぶ意義や学習意欲を表現することも大切です。



4 教師の話聞く。

・教師が判定結果を発表し、講評をする。

【授業改善の視点】

正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、生徒が自分の意見をもちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いを付けたりする中で、納得解を見出しながら合意形成を図っていく過程が重要であり、主権者教育の推進のポイントでもあります。